

No	①国提出事業名		②実施計画期間 (R4年度の実施年数)				
1	ニューノーマル時代を切り拓く地域の稼ぐ力向上プロジェクト		R3年度～R5年度 (2年度)				
③全体概要							
<p>コロナ禍により急減する販売機会の創出や飲食サービス業の多角化を目的として、ICT等の先端技術を活用した販路拡大の取組を進めるとともに、これまで本市の事業者が培ってきた物産展等でのノウハウやネットワークを活用し、本市が取り組んでいるデザイン思考とを有機的に連動を図りながら、新型コロナウイルス感染症を景気として、社会情勢の変化に左右されない足腰の強い稼ぐ力を身につけ、事業者の経営基盤の強化を図るとともに、雇用の確保や充実につなげる。</p>							
④市予算事業(令和4年度)							
事業名	概要	主な事業実績	予算額 (うち交付金見込)	実績額 (R5.3.実績)			
戦略的国内外市場開拓推進費	<p>地場産業の競争力強化を目的に、道内の各市町村や支援機関等と連携して、大消費地やクローズマーケットなど国内外の多様な市場との連携強化を図るとともに、地域資源の磨き上げ支援やブランド化を推進することにより、地域産品の取引拡大及び販売機会創出を支援する。</p>	<p>○国際情勢の変化により、ロシア・サハリン州関係事業が中止となった。</p> <p>○オンライン等を活用した商談会の開催 商談参加企業実数:69者 成約数:84件</p> <p>○道外のスーパーマーケットや企業の福利厚生サービスを活用して物産展を開催した。 道外スーパーマーケットとの取引件数:4件</p> <p>○国内外において地域の商品・サービスが市場に受け入れられるか市場調査を行った。</p> <p>○事業者の市場開拓に係る相談窓口を設置 ・訪問等件数:898件 ・相談件数:64件</p>	9,048 (4,524)	5,198 (2,599)			
合計 (うち交付金対象)			9,048 (4,524)	5,198 (2,599)			
⑤本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑥本事業終了後における実績値			
指標名(旭川市関係分)		基準値	目標値	単位	目標年月	最新値	事業効果
指標①	本事業を活用した商談成立数	0	120	件	R6.3月	124 (R5.6月)	<p>地方創生に効果があった</p> <p>R4年度は中間目標を達成しており、事業終了時における目標値(KPI)も今後達成できる見込みであることから、本事業の取組は地方創生に効果があったと考えられる。</p>
指標②	海外展開に向けた商品サービスの開発件数	0	30	件	R6.3月	22 (R5.6月)	
指標③	本事業を活用した商談会等への参加企業数	0	120	件	R6.3月	99 (R5.6月)	
指標④							
⑦外部有識者からの評価(案)							
事業の評価				外部有識者からの意見(案)			
総合戦略のKPI達成に有効であった				R4年度時点での中間目標を達成したことから事業が有効であると言えるものの、ロシア・ユジノサハリンスク市との経済交流は中断していることから、他地域をターゲットとして設定するなど、継続的な海外販路開拓に向け取り組んでいく必要がある。			
⑧実績値を踏まえた事業の今後について							
今後の方針				今後の方針の理由			
事業の継続 (計画通りに事業を継続する(または、概ね同内容で継続する))				コロナ禍で停滞していた経済活動が再開されてきた中、地域の商品を道外・海外の様々な市場の需要に合わせてローカライズさせるため、ターゲットとなる市場との連携を図りながら商品のブラッシュアップを図るとともに、量販店・宅配サービス・外食産業・テレビショッピングなど、多様な市場との商談機会を創出することで、地域の稼ぐ力を向上させる。			

地方創生関連交付金事業及び企業版ふるさと納税活用事業に係る事業実施結果報告(案)

No	①国提出事業名		②実施計画期間 (R4年度の実施年数)				
2	新時代に飛躍する新・大雪圏域観光振興プロジェクト ～都市と自然、仕事と遊びを繋ぐシームレスな観光地づくりの推進～		R3年度～R7年度 (2年度)				
③全体概要							
本圏域が持つ都市機能と自然の調和、明瞭な四季といった様々なコンテンツを生かし、Withコロナ、Afterコロナを見据え、近年で各種スポーツや農村・自然・文化など屋外を中心に多様な体験をするアドベンチャートラベルの充実を図るとともに、家具産業や農業、食産業と連携した取組みにより家族や少人数の旅行など多様な観光需要への対応や商品の高付加価値化に取り組み、「稼ぐ」観光地域づくりを進めることで、本圏域に人を呼び込み、地方創生の実現を目指す。							
④市予算事業(令和4年度)							
事業名	概要	主な事業実績	予算額 (うち交付金見込)	実績額 (R5.3実績)			
旭川観光コンベンション協会補助金	観光関連団体との連携により、オール旭川体制の充実を図り、本市の観光振興に資するべく、一般社団法人旭川観光コンベンション協会へ補助金を交付する。	○学会会議や企業ミーティングを誘致するための開催支援補助の実施 312件	2,000 (1,000)	2,000 (1,000)			
大雪カムイミントラDMO推進費	滞在型・通年型観光の促進に向けたマウンテンシティリゾートの形成を推進し、スキー場を核とした冬季観光促進事業、マーケティング調査及び各種モデル事業等を実施する(一社)大雪カムイミントラDMOを支援する。	○本事業を推進するための専門人材及びコーディネーターの配置 ○AT、着地型観光、ワーケーション等の商品造成及び販売体制の強化・充実 ○アクティビティセンターの運営・機能強化 ○圏域の観光案内を行うガイド育成講座の開催 ○観光商品の開発・販売を行うコーディネーターの研修派遣	30,504 (15,252)	30,504 (15,252)			
観光プロモーション推進費	経済発展とまちづくりに向けた本市の交流人口増大を図るため、他地域と連携しながら、観光客及び航空路線の誘致宣伝活動を推進する。	○教育旅行等の誘致推進のためWebサイトやSNSの活用による情報発信体制の強化	4,000 (2,000)	4,000 (2,000)			
観光情報発信費	観光入込客数及び観光客宿泊数の増加を図るため、本市の知名度の向上及びイメージアップを図るとともに、観光客誘致に係る地域観光資源等の情報発信を様々な媒体を利用して実施する。	○新たな着地型観光商品などを紹介するガイドマップ及びWeb版マップの作成	3,000 (1,500)	3,000 (1,500)			
合計 (うち交付金対象)			39,504 (19,752)	39,504 (19,752)			
⑤本事業における重要業績評価指標(KPI)							
⑥本事業終了後における実績値							
指標名(旭川市関係分)	基準値	目標値	単位	目標年月	最新値	事業効果	
指標①	DMO圏域観光宿泊延数	530	1,400	千泊	R6.3月	1,027 (R5.3)	地方創生に効果があった 令和4年度についてはKPI①が前年度より大幅に上昇し中間目標を達成しており、これまで本圏域の弱みであったアクティビティの充実により、都市機能を有しながら、豊かな自然を体験できるエリアとしてのブランド化が進んだ。引き続き取組むことでKPI②、③の達成を図る。
指標②	一人当たり旅行消費額	33	75	千円/人	R6.3月	51.9 (R5.3)	
指標③	企業研修、ワーケーション、学会会議、教育旅行等の実施数	64	155	件	R6.3月	82 (R5.3)	
指標④							
⑦外部有識者からの評価(案)							
事業の評価			外部有識者からの意見(案)				
総合戦略のKPI達成に有効であった			新型コロナウイルス感染症が感染症法上の2類から5類に変更され、観光客の回復が見込まれることから、これまでDMOをはじめとして実施してきた商品造成、販売体制の充実やガイド育成などの事業を検証・発展させるとともに、広く周知を図ることで、観光客の増加につなげること。				
⑧実績値を踏まえた事業の今後について							
今後の方針			今後の方針の理由				
事業の継続 (計画通りに事業を継続する(または、概ね同内容で継続する))			令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策と経済の両立を図る方向にシフトし、事業を一部制限しながら、観光需要の回復を図った。 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、本来の形で事業を継続することで、観光需要のさらなる回復を図る。				

地方創生関連交付金事業及び企業版ふるさと納税活用事業に係る事業実施結果報告(案)

No	①国提出事業名		②実施計画期間 (R3年度の実施年数)			
3	あらゆる世代の働き手と地域中小企業を繋ぐ!“旭川圏トライアルワーク”連携支援プロジェクト【北海道共同申請】		R2年度～R4年度 (3年度目)			
③全体概要						
実践的な就労体験や高校生インターンシップを通じて、あらゆる世代の働き手と人手不足に陥っている地域の中小企業を繋ぎ、就労による地域定着と企業の労働力確保を実現し、若年者や現役世代の都市圏への流出を抑制することで、東京圏並びに道内人口の1/3に及び札幌一極集中の是正につなげる。						
④市予算事業(令和4年度)						
事業名	概要	主な事業実績	予算額 (うち交付金見込)	実績額 (R5.3.実績)		
旭川圏トライアルワーク連携支援事業	職場体験やインターンシップの効果的な活用により、若年者、女性、シニア、障がい者等の多様な人材の就業・定着を促進し、旭川圏域の労働力人口の維持・向上を目指す。	①職業紹介所「トライアルワークセンター」においてトライアル雇用や職場体験でマッチングを行った。 ・相談件数(延べ) 1,145件 ・就労体験者数 62件 ・就労者数 42件 ・登録企業数 109社 ・登録求職者 162名 ②市内の高校生(進学希望)を対象にインターンシップを行った。 ・実施高校数 7校 ・インターンシップ参加者数 1,192名	12,920 (6,460)	12,920 (6,460)		
はたらく環境づくり支援費	市内企業における働き方改革の周知・啓発、従業員の人材育成や新しい働き方による雇用の支援を実施する。	①障害者活用ワークショップの開催。 開催日 7月14日, 1月13日 受講者23人 ②外国人材活用セミナーの開催 開催日 2月17日 受講者 24人 ③女性再就職支援セミナー 開催日 1月29日 受講者 21人	485 (242)	95 (47)		
合計 (うち交付金対象)			13,405 (6,702)	13,015 (6,507)		
⑤本事業における重要業績評価指標(KPI)						
指標名(旭川市関係分)	基準値	目標値	単位	目標年月	最新値	事業効果
指標① 就職数(「旭川圏トライアルワーク事業」による)	0	350	人	R6.3	67	地方創生に効果があった (新型コロナウイルスの影響により相談窓口の閉鎖などKPI①、②は達成できなかったが、一定のニーズは見られたとともに、KPI③は目標値を大きく上回ったことから、こうした取組の需要はあるものと考えている。雇用のミスマッチ解消や若者の地域定着にもトライアル雇用のニーズは増えていくと考えられる。)
指標② 就労体験者数(「旭川圏トライアルワーク事業」による)	0	880	人	R6.3	125	
指標③ 参加者数(「高校生インターンシップ事業」による)	0	1,750	人	R6.3	3,159	
指標④						
⑦外部有識者からの評価(案)						
事業の評価		外部有識者からの意見(案)				
総合戦略のKPI達成に有効であった		若者定着や移住には地域の雇用は極めて重要な要素であり、首都圏等や札幌圏への人口流出を防ぐために雇用のミスマッチの是正や、魅力向上に向けた取組は有効であると考えられることから、事業を積極的に進めていくべき。				
⑧実績値を踏まえた事業の今後について						
今後の方針		今後の方針の理由				
事業の終了 (当初予定通り事業を終了する(または、した))		協議会は、予算を持たない団体として令和5年度以降も継続予定だが、トライアルワークセンターは旭川信用金庫が、インターンシップ事業は旭川市が主体となり運営していく予定。				

地方創生関連交付金事業及び企業版ふるさと納税活用事業に係る事業実施結果報告(案)

No	①国提出事業名		②実施計画期間 (R3年度の実施年数)	
4	ものづくり企業のデザイン力向上による持続可能な都市創造プロジェクト		R2年度～R6年度 (3年度目)	
③全体概要				
<p>本市は北北海道の中核都市であり、豊富な農畜産物や海産物、木材等の物流拠点となっていることを背景として、家具・木製品、機械金属、食品加工など多様なものづくり企業が集積している。特に、家具・木製品の分野では「国際家具デザインフェア旭川」や「旭川デザインウィーク」などデザインをテーマとした取組を長年行ってきており、令和元年10月には、国内3都市目となる「ユネスコ創造都市ネットワーク」のデザイン分野での加盟認定を受けたところである。今後、本市に集積しているデザインのノウハウを地域の強みとして、消費者ニーズの把握や商品開発、人材育成等における旭川企業へのデザイン経営の導入促進や、市民に向けたデザインの普及を図ることで地域産業の活性化やデザイン都市としての魅力向上を図っていく。</p>				
④市予算事業(令和4年度)				
事業名	概要	主な事業実績	予算額 (うち交付金見込)	実績額 (R5.3実績)
戦略的国内外市場開拓推進費	地場産品の国内外における新たな市場開拓を推進するため、国内外の各種物産展・展示会への出展支援や道外道の駅との物産交流事業などを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・道外道の駅との物産交流を始め、域外からの稼働力の強化を図った。 ・交流道の駅数 21駅 ・その他取引先件数 25件 ・取引額 約1,496万円 	2,343 (1,171)	2,343 (1,171)
家具等国内外販路拡大支援費	首都圏で開催される展示会への出店や国内外バイヤー、メディアに対するPR・招へい活動を支援するとともに、「クラフトマップ旭川」のデータ更新、配布を行うことにより、木製品産業の販路開拓・拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「IFFT東京国際家具見本市」への出展を支援した。 ・会期 令和5年2月28日～3月3日 ・会場 東京ビッグサイト ・内容 家具見本市への旭川ブースの出展 ・総来場者数 23,719人 	3,000 (1,500)	3,000 (1,500)
地場産品開発・販路拡大支援費	中小企業の新製品開発・研究や販路開拓の支援等の実施により、生産、販売、収益の拡大を通じて、域外からの外貨獲得を目指し、地域経済の活性化及び雇用の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の新製品開発や販路開拓の支援を行ったほか、道外展示会への出展支援を行った。 ・旭川ものづくり支援補助金 採択18事業者 ・道外展示会出展事業 出展先:東京インターナショナルギフトショー 期間:2023年2月8日～10日 出展企業:4事業者 	15,039 (7,519)	13,773 (6,887)
食品産業支援費	本市の基幹産業である農業と食品加工業の連携によって、地場農産物等を活用した付加価値の高い、市場競争力のある加工食品の開発を促進し、地域経済を活性化させるため、地域関係機関と連携した支援体制(食品産業支援センター)を構築し、加工食品開発事業を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 食品産業の事業者に対する相談対応や商品開発支援、人材育成支援などを行った。 ・相談対応:310件 ・食品試験:561検体/1,036項目 ・商品開発:4事業者 ・人材育成:セミナー開催13回 	2,600 (1,300)	2,600 (1,300)
デザイン推進事業費	国を中心にデザイン経営を導入する動きが加速しており、本市としても、中小企業がデザイン視点を取り入れ、新しい価値創出に繋げるため、デザインを学び、触れ、つくる機会の創出を進めるとともに、デザイン経営による地域課題の解決に繋げる人材育成事業などを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業のデザイン経営導入促進や人材育成支援を実施した。また、デザインイベントの開催や小・中・高校生向け出前授業の実施を通じて、市民へのデザイン思考浸透を図った。 ・あさひかわデザインウィーク 2022 来場数 83,053人 ・まちなかキャンパス2022 来場者数63,000人 ・デザインプロデューサー事業(研修・ワークショップ等7回 受講者27人) ・子ども向けデザイン出前事業(6学校 参加者454人) ・市民向けデザインセミナー(3回 参加者75人) ・デザイン経営セミナー(9回 参加者639人) 	13,663 (6,832)	13,639 (6,819)

旭川工芸技術等 継承事業費	木製品や窯業製品製造の次代のものづくりを担う人材の育成を図るため、道内外・旭川地域の熟練技術者や有識者と連携し、製造に関する優れた技術・技能の継承とデザインから要素技術まで幅広く視野に入れた研修(座学・実習・市民向け講習会)を行う。	外部講師等により、木材加工機械の操作方法や知識の習得等のための講習会、講演会等を実施した。 ・木製品実習 2回 参加者69人 ・窯業実習 1回 参加者10人 ・座学 3回 参加者87人	1,000 (500)	589 (295)
ものづくりインター ンシップ事業	ものづくり産業を担う人材の養成及び業界理解を深めるため、市内近郊の高校生をメイン対象としたインターンシップ等を実施する。	・旭川市内の高校生等を対象に、地元ものづくり企業職場体験実習を通じて、新卒者の職業意識醸成や地元産業への理解を深めるためインターンシップを3回開催した。(参加者数49名)	514 (257)	281 (140)
ユネスコ創造都市 ネットワーク連携 費	ユネスコ創造都市ネットワークの連携効果を最大限発揮させるため、デザイン都市等と連携し、デザインを活用した豊かな創造性あふれる魅力的なまちづくりを進める。	デザイン都市旭川のPR及びユネスコ創造都市ネットワークとの連携強化を行った。 ・プロモーション動画3本作成 ・ユネスコ創造都市ネットワークとの連携強化(総会やサブネットワーク会議の出席、中国・ブラジル・タイ・名古屋市・金沢市との交流)	3,000 (1,500)	2,970 (1,485)
スタートアップ伴 走支援費	スタートアップ事業者お角段階のニーズに合わせた伴走的・連続的なフォローアップを行い、ビジネスプランの質向上や起業後の早期の経営安定化を図る。	スタートアップ事業者への連続的・伴走的な支援や道北ビジネスプランコンテストの開催支援を行った。 ・スタートアップ伴走支援事業 創業等セミナー開催14回 新事業創出の支援 支援件数2件 ・道北ビジネスプランコンテスト 募集:2022年11月1日~12月23日 応募:14件	4,233 (2,112)	4,212 (2,106)
デザインギャラ リー管理負担金	産業デザインを主体とした企画展示及び市民等の創作活動の発表の場であるデザインギャラリーの運営管理を行い、地場産業におけるデザイン振興の動機付けやデザインマインドの向上を図る。	デザインギャラリーの管理・運営を通じて、地場産業のデザイン振興の動機付けやデザインマインドの高揚を図った。 来館者:13,128人 主な企画展示:あさひかわ食のデザイン展, デザイン絵日記, 旭川デザイン協議会展2023など	9,162 (4,581)	9,162 (4,581)
合 計 (うち交付金対象)			54,554 (27,272)	52,569 (26,284)

⑤本事業における重要業績評価指標(KPI)						⑥本事業終了後における実績値	
指標名(旭川市関係分)		基準値	目標値	単位	目標年月	最新値	事業効果
指標①	デザイン経営実践企業数	0	150	社	R7.3	65 (R5.3)	地方創生に効果があった KPI①③④の中間目標 は達成しており、ユネス コ創造都市デザイン分 野で加盟し、デザイン 経営の取り組みについ て家具以外の業種にも 浸透しつつある。引き 続き企業の稼ぐ力向上 のため、デザインを活 用した取り組みを推進 していく必要がある。
指標②	本事業を通じた海外進出企業数	0	150	社	R7.3	50 (R5.3)	
指標③	デザインプロデュース及びデザイン経営に関わるセミナーの参加者数	0	18,500	人	R7.3	4,554 (R5.3)	
指標④	デザイン経営を実践する企業の新製品開発件数	0	120	件	R7.3	94 (R5.3)	

⑦外部有識者からの評価(案)

事業の評価	外部有識者からの意見(案)
総合戦略のKPI達成に有効であった	本市の特徴あるまちづくりとして、デザインを核とした産業振興を図るとともに、普及啓発によりデザイン思考が市民生活に取り入れられることで、デザイン都市旭川としてのシビックプライドの醸成やイメージアップにもつながることから、引き続き取り組む必要がある。

⑧実績値を踏まえた事業の今後について

今後の方針	今後の方針の理由
事業の継続 (計画通りに事業を継続する(または、概ね同内容で継続する))	地域産業の稼ぐ力の向上に向けて、デザイン経営導入や人材育成に関する支援を実施するとともに、市民に向けたデザイン思考の浸透、外部人材を活用したデザイン活動の実践を通じて、デザイン都市としての魅力向上を図っていくため。

地方創生関連交付金事業及び企業版ふるさと納税活用事業に係る事業実施結果報告(案)

No	①国提出事業名		②実施計画期間 (R3年度の実施年数)				
5	青少年ICTパークプロジェクト～eスポーツをきっかけにIT人材の育成と中心市街地の賑わい創出		R2年度～R6年度 (3年度目)				
③全体概要							
本市の中心市街地には中高生、大学生等の若者やインバウンドを始めとする来訪者の滞在場所が少ないことや、プログラミング教育の開始に伴い、学校外でICTに触れ関心を持ち、親しむ場や機会が必要なこと、AIやIoTによる技術革新を踏まえた企業誘致や産業支援などへの対応が求められていることから、新たにICTパークを設置し、eスポーツを核とした中心市街地の賑わい創出や、Society5.0やAI、IoT社会の到来に対応していくためのICT人材の育成、地域産業支援に関する実践的な取組の推進などを、産学官の連携により実施することで、新たな価値を創出し地域の活性化を図っていく。							
④市予算事業(令和4年度)							
事業名	概要	主な事業実績	予算額 (うち交付金見込)	実績額 (R5.3実績)			
ICTパーク運営費	eスポーツを核とした中心市街地の賑わい創出とSociety5.0やAI、IoT社会の到来に対応していくためのICT人材の育成を目的に、eスポーツのトレーニングジムやプログラミング的思考体験ができる施設を運営する。	<ul style="list-style-type: none"> ○eスポーツを核とした賑わい創出(主なイベント) ・企業対抗 太鼓の達人 5月20日 参加・来場者82人 12月16日 参加・来場者62人 ・「KOKUGEKI eSports CHAMPIONSHIP」 8月11日 参加・来場者47名 ・韓日e-sports交流会 9月23日 参加・来場者49名 ○プログラミング的思考体験の推進(主なイベント) ・KOSEN Labo in ICTパーク 11回 ・ICTパークアカデミー 7回 ・U-16旭川プログラミングコンテスト (競技部門PV、作品部門展示) ○その他 ・Asahikawa GAMES JAM 2月18-19日 参加・来場者延べ1,006名 ・視察・教育旅行受入 24件 	60,814 (30,407)	60,814 (30,407)			
合計 (うち交付金対象)			60,814 (30,407)	60,814 (30,407)			
⑤本事業における重要業績評価指標(KPI)							
⑥本事業終了後における実績値							
指標名(旭川市関係分)	基準値	目標値	単位	目標年月	最新値	事業効果	
指標①	情報通信業就職者数	0	32	人	R7.3	6 (R5.3)	地方創生に効果があった 大雪カムイミタラDMOが主体となり、eスポーツを核としたイベントの開催やプログラミング的思考体験の推進のため、NTT東日本や旭川高専と連携し、各種体験教室やイベントを開催しており、ICTパークの知名度向上につながっている。
指標②	企業立地件数	0	34	件	R7.3	7 (R5.3)	
指標③	観光宿泊延数	1,083	1,300	千泊	R7.3	673 (R5.3)	
指標④							
⑦外部有識者からの評価(案)							
事業の評価		外部有識者からの意見(案)					
総合戦略のKPI達成に有効であった		中高生や大学生等の若者が集まりやすい中心市街地において、eスポーツを通じた賑わいの創出やプログラミング技術に触れることにより将来のICT人材を育成することに資すると考えられるので、市内外からの誘客に取組み、さらなる施設の活用を図るべき。					
⑧実績値を踏まえた事業の今後について							
今後の方針		今後の方針の理由					
事業の継続 (計画通りに事業を継続する(または、概ね同内容で継続する))		親子連れや若者たちを集客できる、eスポーツを中心とした複合型イベント「Asahikawa GAMES JAM」の展開により、市内のみならず全国的な知名度向上を狙い、教育旅行等の誘致を推進する一方、デジタル人材育成拠点としての機能強化を図り、施設全体の推進・活用を図る。					